

- ※ 提供されたリストに掲載されている順に従って記載。
- ※ 環境省レッドリストと海洋生物レッドリストについては、評価カテゴリーは絶滅（EX）、野生絶滅（EW）、絶滅危惧ⅠA類（CR）、絶滅危惧ⅠB類（EN）、絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）、絶滅危惧Ⅱ類（VU）、準絶滅危惧（NT）、情報不足（DD）、絶滅のおそれのある地域個体群（LP）の8つに分けられる。絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）は、絶滅の危機に瀕している種、絶滅危惧ⅠB類は、ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの、絶滅危惧Ⅱ類（VU）は、絶滅の危険が増大している種、準絶滅危惧（NT）は、現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては『絶滅危惧』に移行する可能性のある種、情報不足（DD）は、評価するだけの情報が不足している種とされている。
- ※ 生態系被害防止外来種リストについては、定着を予防する外来種（定着予防外来種）、総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種）、適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）の大きく3つに分類される。

9. 環境啓発活動等のイベント開催実績

東京湾の海域及び流域河川の水質改善等に関する普及啓発活動を含むイベントは、表9-1のとおり、12件の環境啓発活動等のイベントが開催されました。

(募集時に対象期間とした7月～10月外のものも含みます。)

表 9-1 環境啓発活動の開催実績 (実施日順)

報告書 番号	開催場所	実施日	活動内容等	主催
1	横浜市海の公園、 盤洲干潟、走水海 岸、柴漁港 等	4月22日～ 11月12日	アマモ種子採取、種 選別、種まき、アマ モ場再生活動	東京湾 UMI プロジェク ト参加各社、金沢八景一 東京湾アマモ場再生会 議、海辺づくり研究会
2	旭化成株式会社 製造統括本部 川崎製造所	6月1日～ 6月30日	製造所環境月間の 取り組み	旭化成株式会社 製造統括本部川崎製造 所 環境安全部
3	富津市下州海岸	6月10日	富津海岸清掃活動	日本製鉄株式会社 技術開発本部
4	株式会社日本触媒 川崎製造所	6月13日	2023年度環境大会	株式会社日本触媒 川崎製造所
5	隅田川右岸 荒川区南千住のテ ラス	7月7日	隅田川の写真展示	川はともだち
6	葛西海浜公園 西なぎさ	7月16日～ 8月27日	海水浴体験	NPO 法人ふるさと東京 を考える実行委員会
7	葛西海浜公園 西なぎさ	7月16日～ 8月27日の 日曜日と祝 日	里海まつり	NPO 法人ふるさと東京 を考える実行委員会
8	横浜港湾空港技術 調査事務所 生物共生型護岸	7月31日	江戸前アサリわく わく調査	横浜港湾空港技術調査 事務所
9	横浜港湾空港技術 調査事務所 生物共生型護岸	8月2日	外来海洋生物観察 会	横浜港湾空港技術調査 事務所
10	東亜合成株式会社 川崎工場	8月28日	2023年度第3回構 内一斉清掃	東亜合成株式会社 川崎工場
11	横浜市役所アトリ ウム	10月14日 ～10月15 日	東京湾大感謝祭 2023	東京湾大感謝祭実行委 員会
12	台東区生涯学習セ ンター	11月18日 ～11月19 日	環境フェスタたい とう 2023 への出展	環境フェスタたいとう 2023 実行委員会

イベントレポート 1

環境啓発活動等のイベントの概要

主催機関	イベント名
東京湾 UMI プロジェクト参加各社、金沢八景ー東京湾アマモ場再生会議、海辺つくり研究会	東京湾 UMI プロジェクト（アマモ種子採取、種選別、種まき）およびアマモ場再生活動

【イベント概要】

東京湾 UMI プロジェクトに参加する企業、市民が中心となり、アマモ場の再生活動を行っています。今年度は、4月のアマモ移植会、5・6月の花枝採取（種子採取）、7月の種子選別、11月の播種を行いました。主な活動場所は、横浜市海の公園、盤洲干潟、走水海岸、柴漁港などです。

【主なイベントの開催日・主催・活動・参加者】

令和5年4月22日：金沢八景ー東京湾アマモ場再生会議、アマモ移植会

令和5年5月20日：セブン-イレブン記念財団、花枝採取（UMIプロ）、300人

令和5年5月21日：東京ガス（株）、日本テレビ、花枝採取（UMIプロ）、150人

令和5年6月3日：マルハニチロ（株）、花枝採取（UMIプロ）、22人（雨天のためスタッフのみ）

令和5年6月4日：三菱電機（株）主催、花枝採取（UMIプロ）、240人

令和5年7月29日：金沢八景ー東京湾アマモ場再生会議、種子選別

令和5年7月30日：日本テレビ、種子選別

令和5年11月3日：マルハニチロ（株）、東京ガス（株）、種子選別

令和5年11月4日：セブン-イレブン記念財団、種子選別

令和5年11月11日：金沢八景ー東京湾アマモ場再生会議、苗床づくり

令和5年11月12日：栗田工業（株）、日本テレビ、播種

【採取種子数】

延べ751人、118袋、472,000粒

（上記イベント以外の小規模な活動での採取量も含む）

【協力・連携】

東京都港湾局港湾整備部、関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所、他

【活動写真】



4月22日：金沢八景ー東京湾アマモ場再生会議、アマモ移植会



5月20日：セブン-イレブン記念財団、花枝採取



5月21日：東京ガス（株）、日本テレビ、花枝採取



7月29日：金沢八景ー東京湾アマモ場再生会議、種子選別



6月3日：マルハニチロ（株）、花枝採取



6月4日：三菱電機（株）主催、花枝採取

7月30日：日本テレビ、種子選別



10月3日： マルハニチロ（株）、
東京ガス（株）、種子選別



11月11日： 金沢八景ー東京湾アマモ場
再生会議、苗床づくり



11月4日： セブン-イレブン記念財団、
種子選別

11月12日： 栗田工業（株）、
日本テレビ、播種

イベントレポート 2

主催機関	イベント名
旭化成（株） 製造統括本部 川崎製造所 環境安全部	製造所環境月間の取り組み

【イベント概要】

環境月間に合わせて、製造所内で各種取り組みを実施した。

【開催時期】

令和 5 年 6 月 1 日～6 月 30 日

【場所】

旭化成（株）製造統括本部川崎製造所内の各部署

【主なイベント内容】

製造所内の各部署で下記 1～3 の活動を実施した。活動の結果は「活動整理表」にまとめ、環境安全部に提出した。

<活動内容>

1. 公害発生源施設及び公害防止施設の総点検
2. 従業員への環境研修及び啓発
(部場における環境関連設備等に関する教育・周知、トラブル時の対応訓練、等)
3. 施設内・周辺の美化及び環境保全対策
(排水溝の清掃、通路の清掃、施設内の除草、配水管の清掃、等)

イベントレポート 3

主催機関	イベント名
日本製鉄（株） 技術開発本部	富津海岸清掃活動

【イベント概要】

日本製鉄（株）技術開発本部富津地区の勤務者から有志を募り、地元である富津市下洲海岸の清掃活動を実施しました。

【開催時期】

令和 5 年 6 月 10 日

【場所】

富津市下洲海岸

【主なイベント内容】

日本製鉄（株）技術開発本部富津地区の勤務者 104 名が参加して、10 時～11 時まで清掃活動実施しました。海開き前に海岸のごみが一掃され、美しい砂浜になりました。

（活動状況）



（回収されたごみ）



イベントレポート 4

主催機関	イベント名
株式会社日本触媒 川崎製造所	2023 年度 環境大会

【イベント概要】

製造所で従業員、協力会社員を対象に環境大会を開催し、189 名が参加した。

【開催時期】

2023 年 6 月 13 日

【場所】

自社（千鳥工場をメイン会場として、千鳥工場と浮島工場を Teams で繋ぎ、会場を分散して開催）

【主なイベント内容】

従業員及び協力会社員に製造所の環境負荷量推移や環境関連の規制動向等について説明した。

イベントレポート 5

主催機関	イベント名
川はともだち	水辺でカンパイ

【イベント概要】

国土交通省河川局の全国的なイベントに初参加し、約 50 名参加。

【開催時期】

2023 年 7 月 7 日（金）18:30～20:00

【場所】

隅田川右岸 荒川区南千住のテラス

【主なイベント内容】

テラスには隅田川の上流の写真展示、昭和 30 年台前後の現地の古い写真展示をして、当時の川を偲んだ。最後に全員で「花」（滝廉太郎）を唄って別れた。

イベントレポート 6

主催機関	イベント名
NPO 法人ふるさと東京 を考える実行委員会	海水浴体験

夏休み期間の7月16日～8月27日までの43日間、10時～16時まで葛西海浜公園西なぎさにおいて、海水浴体験を実施し、5万8千人が海水浴を楽しんだ。



イベントレポート7

主催機関	イベント名
NPO 法人ふるさと東京 を考える実行委員会	里海まつり

夏休み期間の7月16日～8月27日までの日曜日と祝日の9日間、葛西海浜公園西なぎさにおいて、以下の表に掲げる様々な海遊びを行い、1,209名が参加した。

里海まつり参加者一覧(体験者数※保護者を除く)

	曜日	投網 体験 定員 30名	釣り 体験 定員 10組	生物 解説 定員 30名	巻き 体験 定員 30名	めほ り体 験 定員 50名	海での 泳ぎ方 教室 定員 15名	スイ カ割 り 定員 50名	ベカ 舟 定員 50名	紙芝 居 定員 30名	水辺 の安 全教 室 定員 30名	レスキ ュー ボード 体 験 定員 30名	ビーチ クリー ン	石笛 演奏	煙 体 験	バリ アフ リー ビー チ	計
7月 16日	日	40								30	11				80		161
7月 17日	月			30		50		60		30							170
7月 23日	日			15	31					18			50				114
7月 30日	日			35		51	15										101
8月 6日	日	30	10						50								90
8月 11日	祝		10					50		34		30				70	194
8月 13日	日	30		25													55
8月 20日	日	30		42						20		25					117
8月 27日	日							50	38				69	50			207
計		130	20	147	31	101	15	160	88	132	11	55	119	50	80	70	1,209

イベントレポート 8

主催機関	イベント名
横浜港湾空港技術調査事務所	江戸前アサリわくわく調査

【イベント概要】

小学生（親子）を対象に、東京湾のアサリがいつ・どこでわくのかを調べる江戸前アサリ「わくわく」調査を実施しました。

【開催時期】

令和5年7月31日

【場所】

横浜港湾空港技術調査事務所
生物共生型護岸「潮彩の渚」(人工干潟)



【主なイベント内容】

25cm×25cm×10cm の「わく」内にどれくらいのアサリが「わく」かを調査。小学生6箇所、大人2箇所の合計8箇所調べることが出来ました。



イベントレポート 9

主催機関	イベント名
横浜港湾空港技術調査事務所	外来海洋生物観察会

【イベント概要】

小学生（親子）を対象に干潟の外来海洋生物観察会を実施しました。

【開催時期】

令和5年8月2日

【場所】

横浜港湾空港技術調査事務所
生物共生型護岸「潮彩の渚」（人工干潟）



【主なイベント内容】

メインテーマの外来海洋生物（ムラサキイガイ、ミドリイガイ）を中心に、干潟から生物を採取しました。その後は顕微鏡で拡大したりスケッチをしたりしながら観察しました。



イベントレポート 10

主催機関	イベント名
東亜合成株式会社 川崎工場	2023年8月28日(月) 2023年第3回構内一斉清掃

イベントレポート 11

主催機関	イベント名
東京湾大感謝祭実行委員会	東京湾大感謝祭 2023

【イベント概要】

東京湾大感謝祭は、市民や企業、団体と国や自治体がともに、海の再生やライフスタイルシフトのあり方を考え、行動するきっかけを提供する場として、2013年秋に初開催されました。その後、横浜赤レンガ倉庫とその周辺海上を舞台に開催され、多くの市民や企業、団体、国、自治体の関係者が参加しているイベントです。

東京湾大感謝祭 2023 は、新たな実行委員会の体制で、東京湾再生のための行動計画（第三期）の策定を受け、「東京湾の魅力を発見しよう ～みんなで東京湾の未来を作ろう～」をテーマに掲げ実施されました。ステージでは15のプログラム、展示企画ではゆるキャラ撮影会やワークショップ形式のコーナー、海の相談窓口なども設営されました。連携イベントとして、東京湾周遊特別クルーズ開催（10/1）、第23回東京湾シンポジウム（10/13）、ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉（10/14.15）なども開催されました。

【開催期間】

令和5年10月14日～15日

【場所】

横浜市役所アトリウム

【主催】

東京湾大感謝祭実行委員会

【共催】

国土交通省関東地方整備局、環境省、横浜市、東京湾再生官民連携フォーラム、(一財)みなと総合研究財団、東京湾の環境をよくするために行動する会

【後援】水産庁、東京湾再生推進会議、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、川崎市、千葉市、さいたま市、横須賀市

【来場者数】

3,800名／2日間

【取材】

業界紙誌：2社

東京湾大感謝祭 2023 開催結果報告

- 催事名：東京湾大感謝祭 2023
- 会期：2023年10月14日（土）～15日（日） 10：00～17：00
- 会場：横浜市役所アトリウム
- 主催：東京湾大感謝祭実行委員会
- 共催：国土交通省関東地方整備局 環境省 横浜市 東京湾再生官民連携フォーラム
（一財）みなと総合研究財団 東京湾の環境をよくするために行動する会
- 後援：水産庁 東京湾再生推進会議 東京都 埼玉県 千葉県 神奈川県 川崎市 千葉市 さいたま市 横須賀市
- 協力：横浜港運協会（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー（一社）横浜港振興協会
横浜港ポート天国推進連絡協議会 千葉県漁業協同組合連合会 経団連自然保護協議会
（一財）セブン-イレブン記念財団 東京湾フェリー株式会社
NPO法人日本ビーチ文化振興協会（公財）日本釣振興会 NPO法人海辺つくり研究会
NPO法人 Blue Earth Project

- 天候：2023年10月14日（土）晴、15日（日）雨のち曇り
- 来場者数：3,800名/2日間
- 出展者数：全37小間
- 協賛者数：（プラン別）11社・団体
- 特別協賛者数：4社・団体
- ステージ：延べ二日間 おもなプログラム実施
主なプログラム：1.開催宣言、2.オープニングセレモニー、3.みなとSDGsパートナー、4.東京湾地元自慢：（東京湾岸自治体、船橋市 館山市 鶴見区 富津市 大田区 横須賀市）、5.東京湾・クッキング、6.SONGS ORICAさん、7.フォーラム CSR-NPO 未来交流 2023、8.水の天使と考えよう！下水道と東京湾再生について、9.私たちの世代の想い・東京湾：瀬之上綾音（小学三年生）、筑波大学附属駒場中学生、10.私たちとファッション～ひとつのものを大切に、海を守ろう～、11.海のSDGs映画祭プレ企画、12.横浜市民こどもミュージカル、13.パネルディスカッション-どうする？東京湾-、14.江戸前ってすごい！東京湾にいるモンスター、15.東京湾の市民活動：CNAC、フォーラムPT・東京湾の窓 16.アマモン、スカリン、うみスケ、チーバくん、仕事猫・[関東地方整備局版]など

- 展示ブース：VRによる体験できるブースや実際に貝殻アートやハゼの粘土細工など制作できるワークショップのコーナーなど、工夫した展示を行う
- 連携イベント：東京湾周遊特別クルーズ開催10月1日・東京湾の日
第23回東京湾シンポジウム開催10/13
ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉10/14.15 など

- 取材：業界紙誌：2社

10/14 のおもなステージ



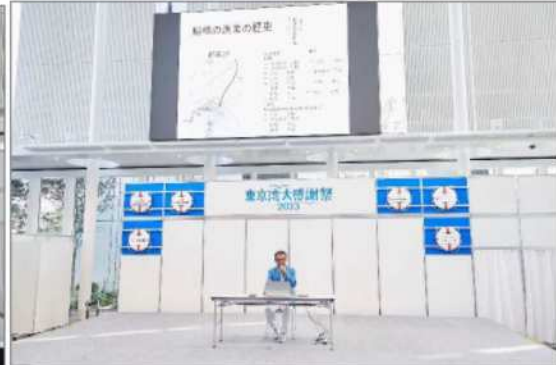
山縣実行委員長への引継ぎ



オープニングセレモニー



セレモニー出席者とマスコットキャラクター



地元自慢 船橋市



東京港お台場の水中は今! 東京港水中生物研究会



学生の考える東京湾 リレートーク



シンガー-ORICA さん



古川モニタリングPT 長と瀬之上綾音さん



筑波大学附属駒場中学生によるアマモなどの取材発表



地元自慢 東京湾岸自治体



地元自慢・館山市



地元自慢 横浜市 鶴見区



東京 WONDER 下水道



海のSDGs 2024 プレ企画



多くの入場者の方にステージを見ていただきました

10/15 おもなステージ



パネルディスカッション



東京湾にいるモンスター



東京湾 NPO 活動 CNAC



フォーラム・東京湾の窓 PT 活動

10/14.15 展示ブース





アトリウム 外側での飲食スペース



キッチンカー



イベントレポート 12

主催機関	イベント名
環境フェスタたいとう 2023 実行委員会	環境フェスタたいとう 2023

【イベント概要】

環境問題を区民とともに考え、環境にやさしい暮らしの実践を図り、循環型社会の実現を目指すための展示等を行う環境フェスタにおいて、「隅田川の水質を調べてみよう」というブースを出展する。

【開催時期】

令和 5 年 11 月 18 日～19 日

【場所】

台東区生涯学習センター

【主なイベント内容】

- ・ 来場者とともに隅田川の水をパックテストで簡易検査する。
- ・ 隅田川に生息するハゼ、カニの生体展示
- ・ 過去の水生生物調査で捕獲した生物標本の展示



10. 用語解説

表 10-1 水質指標について

項目	説明	環境との関連
溶存酸素量 (DO)	水中に溶けている酸素量のこと で、酸素供給（大気からの溶解や植物プランクトンを含む藻類による光合成など）と消費（有機物の分解、生物の呼吸など）や移流・拡散のバランスを示します。水中に溶ける酸素量は水温が高くなると減少し、水温 20℃の時に約 9 mg/L で飽和状態となります。底層溶存酸素量（底層 DO）とは海底から 1 m 以内の底層で測定された溶存酸素量のことです。	貧酸素状態が続くと、好気性微生物（酸素を必要とする生物）にかわって嫌気性微生物（酸素を必要としない生物）が増殖するようになります。嫌気性微生物の活動により有機物の腐敗（還元・嫌氣的分解）が起こり、メタンやアンモニア、有害な硫化水素が発生し、悪臭の原因となります。また、溶存酸素濃度が 3 mg/L を切ると魚類を含めた多くの底生生物は生息できなくなり、生物多様性が低下します。
塩分	海水 1 kg 中に溶解している塩化ナトリウムなどを主とした固形物質の全量に相当します（絶対塩分）。海水には非常に多くの物質が溶け込んでおり、絶対塩分を直接測定することは困難なので、精度良く測定できる海水の電気伝導度から換算式を用いて仮定の塩分（実用塩分）を求める方法が一般的です。 ※単位は psu（実用塩分）	海面を通じた降水量と蒸発量の差や、河川水等による淡水流入の影響で変化します。低塩分の海水は密度が小さく、相対的に軽いため、表層に低塩分水が分布すると、底層と表層の海水が混ざりにくくなります。こうなると底層の水へ酸素が供給されにくくなることから底層の貧酸素化に影響します。
①透明度 ②透視度	どちらも水の清濁を表現するための指標です。①は直径 30 cm の白色円盤（セッキ板）を水中に沈め、水面から肉眼で確認できる限界の深さをいい、②は透明な管に試料を入れて上部から透視し、白色の標識盤に書かれた印が初めて明らかに確認できるときの水層の高さをいいます。	①、②ともに値が大きいほど水が澄んでいることを表します。主に①は海や湖沼、②は河川や排水の調査等で使用されます。一般的に、水中に浮遊物質や生物が多くなると値は低下します。ダイビングにおいても透視度という用語を用いますが、これは水平方向に見通せる距離を表したものです。

項目	説明	環境との関連
化学的 酸素 要求量 (COD)	水中の有機物を酸化剤で化学的に酸化する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、水中の有機物の分解に必要な酸素の量を表します。	湖沼・海域などの停滞性水域や藻類の繁殖する水域の有機汚濁の指標に用いられます。CODが高い状態が続くと、生物生息環境の多様性が低下し、魚類を含めた底生生物は生息できなくなります。
全窒素 (T-N)	全窒素・全リンは、湖沼や内湾などの閉鎖性水域の富栄養化の指標として用いられています。水中では、窒素・リンは、硝酸・リン酸イオンなどの無機イオンや含窒素・含リン有機物として存在しています。	窒素やリンは、植物の生育に不可欠なものです。過剰な窒素やリンが内湾や湖に流入すると富栄養化が進み、植物プランクトンの異常増殖を引き起こすことがあります。そのため、湖沼におけるアオコや淡水赤潮の発生、内湾における赤潮発生の直接の原因となります。
全リン (T-P)		
クロロ フィル- <i>a</i>	全ての藻類に含まれる光合成色素であることから、水中の植物プランクトン量の指標として用いられます。	

○水質汚濁現象について

・赤潮（水質指標キーワード：全窒素、全リン、クロロフィル-*a*）

水中に生存している植物プランクトン等が異常に増殖し、水の色が著しく変わる現象です。水の色は原因となるプランクトンの種によって異なり、赤褐色、茶褐色などの色を呈します。赤潮が発生する背景としては、窒素やリンの流入負荷量増加に伴う水域の富栄養化が原因のひとつと指摘されています。大量に発生した赤潮生物は死滅後、微生物によって分解される過程で大量の酸素を消費するため、貧酸素水塊の形成要因のひとつとされています。この他にも、毒性を持つプランクトンによる赤潮は、その水域の生物に直接的に被害を与えることがあります。



写真：千葉港内（平成15年8月11日）



写真：隅田川河口部（平成22年7月5日）

・青潮（水質指標キーワード：DO）

富栄養化や有機物による水質汚濁の進んだ内海の底層では、大量発生したプランクトンの死骸が微生物に分解される過程で酸素が消費され、貧酸素水塊が形成されます。貧酸素水塊中では、底質中の硫黄化合物の還元が促進され、次第に水中への硫化水素の蓄積が進みます。このような水塊が風などによって表層まで湧き上がると、含まれていた硫化水素が酸素と反応して硫黄のコロイドを大量に生成します。コロイドは、太陽光を反射して海水を乳青色や乳白色に変色させます。青潮も赤潮と同様に水生生物の大量死を引き起こすなど、生物に被害を与えます。東京湾ではアサリの大量死が起こることもあります。



写真：羽田沖（平成16年8月18日）



写真：千葉港（平成23年8月30日）

・貧酸素水塊（水質指標キーワード：DO）

生物に影響を及ぼすほど酸素の濃度が低くなった水塊のことです。境界値についてはさまざまな指標がありますが、水産用水基準においては 4.3 mg/L が「底生生物の生息状況に変化を引き起こす臨界濃度」とされています。また、環境省が告示する生活環境の保全に関する環境基準において、生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域の基準は 4.0 mg/L 以上、生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域は 3.0 mg/L 以上とされています（詳しくは、<https://www.env.go.jp/kijun/mizu.html> をご覧ください）。

1 1. 問い合わせ先等

(1) 問い合わせ先

本資料の内容や東京湾環境一斉調査についてのお問い合わせ・ご意見は、下記連絡先までお願いします。

- 東京湾再生推進会議モニタリング分科会事務局
環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室 03-5521-8319
- 九都縣市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会
令和6年幹事 千葉県環境生活部水質保全課 043-223-3816
- 東京湾岸自治体環境保全会議
令和5年度幹事 神奈川県環境農政局環境部環境課 045-210-4123
- 東京湾再生官民連携フォーラム
東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム 03-5157-5235

(2) 情報掲載先

東京湾環境一斉調査の報告書は東京湾環境一斉調査 WEB サイトに掲載しています。また、調査結果を分かり易くまとめた「東京湾環境 MAP」を国土技術政策総合研究所 WEB サイトにて掲載しています。

東京湾環境一斉調査の観測データは、東京湾環境情報センターから入手することができます。

- 東京湾環境一斉調査 WEB サイト
https://www.env.go.jp/water/heisa/tokyo_wqs.html
- 国土技術政策総合研究所 WEB サイト（東京湾環境マップと事例集に関する情報）
<http://www.ysk.nilim.go.jp/kakubu/engan/kaiyou/kenkyu/map-sympo.html>
- 東京湾環境情報センター（国土交通省関東地方整備局港湾空港部横浜港湾空港技術調査事務所）
<https://www.tbeic.go.jp/>

(参考)

- 東京湾再生推進会議 WEB サイト
https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/index.html